

ひすいが
「日本の石」
に決定



日本の石としての条件

持つことが望ましい条件

	花崗岩 花崗岩質岩およびそのペグマタイト	輝安鉱 日本を代表する鉱物のひとつとされ、海外での評価も高い。	自然金 黄金の国ジパングの印象が広く浸透している。	水晶 日本式双晶、瑪瑙、玉髄、碧玉	ひすい ひすい輝石およびひすい輝石岩
日本で広く知られている	<ul style="list-style-type: none"> 石材「御影石」として広く用いられる。 国内で広く産し、ほとんどの博物館で展示されている。 基本的な火成岩として中学校で学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表する鉱物のひとつとされ、海外での評価も高い。 国内での産出は多くはない。 主要な博物館で展示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 黄金の国ジパングの印象が広く浸透している。 装飾用以外にもハイテク製品の貴金属として利用されている。 稼働中の金鉱山がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材としての歴史は長く、水晶発振子として有名。 国内で広く産し、ほとんどの博物館で展示されている。 基本的な鉱物として中学校で学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本でも採れる宝石として有名。 世界ジオパークとともに教育と観光の資源として知られる。 主要な博物館で展示され、高等学校の日本史で学習する。
国産の美しい石	<ul style="list-style-type: none"> 色や粒径、集合形態に多様性があり、副成分鉱物も多様。 ペグマタイトには美しい鉱物の結晶が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> 市之川鉱山産のものは日本刀のような美しい大型の結晶を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 山吹色の美しい金属光沢を持ち、それが持続する。 自形結晶も稀に産する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな色や双晶などの結晶の形、集合体としての形態など、非常に多様性に富み、それぞれが美しい。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな色や粒径の結晶の集合体を示し、きらめきが美しい。 有名な緑に加えてラベンダー色などの多様性と半透明の風合い。
鉱物科学や地球科学の分野で世界的な重要性を持つこと	<ul style="list-style-type: none"> 大陸性地殻を構成する主要な岩石の一つで、岩石鉱物学的にも資源地質学的にも重要である。 80 万年前に生成した黒部川花崗岩は、地球最新の花崗岩である。 	<ul style="list-style-type: none"> アンチモンの主要な鉱石鉱物。 市之川鉱山産の巨大な結晶は鉱物学的に重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱水性鉱床だけでなく漂砂鉱床の主要な鉱石鉱物である。 現在日本唯一の採掘されている金属鉱床資源としても重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 特徴的な結晶構造を持ち、圧電性など様々な物性を示す。 主要な造岩鉱物として岩石鉱物学的にも資源地質学的にも重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地質に特徴的な沈み込み帯にのみ産する。 国内の 5 億年前に生成したひすいは世界最古で、地球の冷却史との関連が指摘されている。
他分野でも世界的な重要性を持つこと	<ul style="list-style-type: none"> 建築物、墓石、芸術の材料として重要である。 ペグマタイトから産出する結晶は宝飾品として利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市之川鉱山が奈良時代の日本最古の鉱山の一つではないかという説がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳時代から利用された。 電子機器、歯科治療用、装飾品などに利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧石器時代から利用された。 電子デバイス、窯業、装飾品などに利用された。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界で最古のひすい文化（縄文時代約 7000 年前）となった。 宝飾品、庭石などに利用されている。
長い時間、広い範囲にわたって日本人の生活に関わり、利用されていること	<ul style="list-style-type: none"> 旧石器時代から利用された。 建築、墓石、彫刻など日本全域で利用されている。 近年では国産の花崗岩が海外へ輸出され、海外の工場加工され逆輸入されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 奈良時代に利用が始まったらしい。 精錬されたアンチモンが本や新聞の活字合金として広く印刷に利用された。 明治時代に海外へ良質の標本が輸出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳時代から利用された。 精錬された金は、社寺、城郭、貨幣、歯科治療用、装飾品など日本全域で利用されている。 幕末に大量の金が流出した。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧石器時代から利用された。 明治時代に山梨の水晶の加工品が輸出された。 電子デバイスを用いた電気製品が利用された。 瑪瑙、玉髄、碧玉も宝飾品、工芸品として利用されてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代から奈良時代にかけて玉類として利用された。 一つの産地の石が、古代の日本全域に伝播したのはひすいのみである。 古墳時代には朝鮮半島にも伝播している。 奈良時代から昭和初期まで利用が断絶し、昭和初期に再発見された。
産出が現在まで継続し、野外で見学できること	<ul style="list-style-type: none"> 日本各地の野外で容易に観察できる。 現在でもペグマタイトの観察が可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> 野外で観察できる場所は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな河川で砂金として観察できるが、容易ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本式双晶は難しいが、それ以外は日本各地で観察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内には約 10 か所の産地があり、保全地域では容易に観察できる。
野外での見学が法律による保護などで持続可能であること	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園など法的に保護された指定地内にある花崗岩もある。 国内に広く分布し、将来も野外での観察が確実にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市之川鉱山は保全されている。 現在でも産出が少なくなくなり、野外での観察が難しくなる可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全がされている地域がある。 次第に野外での観察が難しくなる可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全がされている地域がある。 水晶は採集され、次第に野外での観察が難しくなる可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全がされている産地が多い。 海岸や河川の転石として産するものは枯渇せず、将来も観察できる可能性が高い。